

日 本 な し

印旛農林振興センター

1 地区名（集団名）

白井・印西地区（21世紀梨作り研究会）

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 3戸
- (2) 栽培面積 75a
- (3) 収穫量又は出荷量 15t
- (4) 出荷先又は販売方法 直売等

3 ちばエコ基準達成状況

区 分（U園）	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	19～23回	26回
化学肥料（窒素分量）	4.2～9.1kg/10a	13kg/10a

4 事例のあらまし

印旛郡北西地域を中心に、若手を主体とした「21世紀梨作り研究会」が組織されています。現在、印旛地域では、この組織が中心となり、日本なしの減農薬に取り組んでいます。

21世紀梨作り研究会は、会員数37名で、減農薬化に向けた試験や調査を中心に、研究活動や学習活動を実施しています。平成17年度は、その中から3名が「ちばエコ農産物」認証を取得することができました。

5 背景・動機

農薬に対する世間の反応が機敏になってきたことや、薬剤散布自体が近隣住民とのトラブルの原因となりやすいこともあり、以前より減農薬化を目指す生産者は少なくありませんでした。しかし、年1作であり失敗がきかない、病害虫が多く技術的にも難しいなどの問題があり、なかなか取り組みを始められない現状がありました。

「21世紀梨作り研究会」は、なし栽培の先進技術等の研修を中心に行っていましたが、平成12年度より、減農薬化を目指した試験、調査や研修なども実施するようになりました。

減農薬化に取り組むにあたっては、「ちばエコ農産物」認証を取得し、有利販売などを目指すのではなく、薬剤散布の労力軽減、散布する自分自身の健康、薬剤コストの低減ができる事を重点に考えました。

そして、それを実現することにより、消費者や市場などから言われてやるのではなく、自ら自分たちのためにといった、能動的な姿勢で取り組み、その結果、消費者に喜ばれるなしが生産できることを目標に取り組んでいます。



研修会風景



牧草利用
(ケンタッキーブルーグラス・
株元はナギナタガヤ)

6 栽培方法

日本なしの「ちばエコ農産物」認証では、防除技術が一番課題となるため、防除技術の確立に向けた工夫や努力がポイントになります。

まず、防除技術についての工夫を述べますと、

- ① 園地の徹底観察による、病虫害発生状況の把握
- ② 防除記録の徹底とその結果分析
- ③ 病虫害の特徴の把握
- ④ 農薬の性質や効果の把握
- ⑤ 園地の環境整備を重視→草生栽培のマスター

等の栽培に対する姿勢をもとに栽培を行い、

- ① 天候を考慮した防除タイミングの選定
- ② 病虫害毎の適期防除
- ③ 害虫の発生調査
- ④ 土着天敵利用による総合防除の実践

などを行なう必要があります。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成16年9月30日
受粉	平成17年4月20日
摘果	5月1日
収穫開始	8月5日
収穫終了	10月10日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
堆肥	平成16年12月15日	2 t		
スーパー有機100 (6:6:0)	12月15日	160kg	9.6kg	
カニガラ (5:3:0)	12月15日	80kg	4.0kg	
魚骨 (4:9:0)	12月15日	80kg	3.2kg	
コツリン40 (0:40:0)	平成17年3月10日	40kg		
エージングE (4.5:5:3)	3月29日	40kg	1.8kg	
くみあい硫黄 (21:0:0)	9月	20kg	4.2kg	4.2kg
合 計			22.8kg	4.2kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
トップジンMペースト	胴枯病	剪定期間中
※石灰硫黄合剤 (1部)	黒星病、カイガラムシ類	平成17年3月13日
インダーフロアブル	黒星病、赤星病	4月14日
サニパー	黒星病、赤星病	4月14日
※デルフィン顆粒水和剤	ケムシ類	4月14日
※バンガードKS-20	展着剤	4月14日
スコア水和剤10	黒星病、赤星病	4月30日
トップジンM水和剤	黒星病	4月30日
バリアード顆粒水和剤	アブラムシ類	4月30日
ベルコートフロアブル	黒星病、輪紋病	5月10日
※デルフィン顆粒水和剤	ケムシ類	5月10日
キノンドーフロアブル	黒星病、輪紋病	5月17日
フロンサイドフロアブル	黒星病	5月29日
モスピラン水溶剤	アブラムシ類、クワコナカイガラムシ類	6月2日

使 用 農 薬	対 象 病 害 虫	実施年月日
※コンフューザーN	ナシヒメシンクイ、チャノコカクモンハマキ	平成17年6月8日
ユニックス顆粒水和剤47	黒星病	6月9日
ストロビードライフフロアブル	黒星病、輪紋病	6月19日
トップジンM水和剤	黒星病	6月19日
アンビルフロアブル	黒星病、輪紋病	7月1日
ベルコートフロアブル	黒星病、輪紋病	7月1日
ストロビードライフフロアブル	黒星病、輪紋病	7月13日
トップジンM水和剤	黒星病	7月13日
ラービン水和剤75	シンクイムシ類	7月18日
ロディー水和剤	シンクイムシ類・ハマキムシ類・ハダニ類	8月10日 9月9日
オーソサイド水和剤80	黒星病、輪紋病	10月13日
※バンガードKS-20	展着剤	10月13日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

施肥面では、「ちばエコ農産物」栽培基準は有機質肥料を主体にすることで、無理なく達成できますが防除面が難しい。そこで、21世紀梨作り研究会では、減農薬化を目指し、組織的に取り組みました。

その結果、「ちばエコ農産物」認証取得の栽培者が3名誕生した他、13名の会員が減農薬化を実践しつつあり、達成次第、順次申請を行なっていく予定です。

また、この会の取り組みは、研修会を通して地域の生産者に広く影響を与えており、地域全体で日本なしの減農薬化が進みつつあります。